

第2学年月組 国語科学習指導案

1. 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」
2. 目標
 - (1) 単元の目標
 - ・海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつ。
 - ・いろいろな生き物について調べ、生き物カードを作って交流する。
 - (2) 観点別目標
 - ・海の生き物の共生関係や、説明文の組み立てに興味を持って読もうとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
 - ・「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読んでい
る。
【読むこと】読イ
 - ・片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使うことができる。
【言語に関する知識・理解・技能】言イ (ア)

3. 指導にあたって

《本単元における基礎・基本》

2年生の児童にとって本単元の「だいじなところに気をつけて読む」ということは、説明されて
いる大体の順序を読み取ることと考える。その上で、問いの部分とその問いに対する答えの部分
を正確に読みとり、まとめる力をつけていきたい。

本教材は、これまでの説明文に比べ、説明がやや複雑で、登場する生き物の数が多い。生き物相
互の関係も、やや入り組んでいる。そこで、文章に出てくる生き物のうちで、何と何が主要なも
ののかを、見分けさせることが必要となる。そのことは「初め・中・終わり」の中の「初め」の記
述を読むことで、中心となる生き物と、その関係性は理解しやすくなる。読んでいくうちに、お
おまかに「初め」と「終わり」、さらには「中1」「中2」という文章構成にも目を向けさせ、確実に
説明文を読む方法を身につけさせる第一歩としたい。

また、興味を持った海の生き物について調べ、図鑑（カード）づくりをすることを設定し、調べ
たことを正しく読み取ろうとしたり、絵や文章に表したりし、児童の意欲を継続させていきたい。

《児童観》

男子12名、女子18名のクラスである。クラス目標を「勇気いっぱい、優しさいっぱい、考え
いっぱい」と掲げ、安心して発言できる雰囲気作りはほぼできている。自分の考えを持って話し合
いに参加しようという意欲も育ち始めている。しかし、自分勝手な思いであったり、根拠のない想
像であったりすることが多い。叙述に即して内容を読み取れる児童は少ないので、この問いと答え
のはっきりした教材で根拠を明らかにし、叙述に即した読みができる児童を育てたい。

《指導観》

サンゴの海にすむ生き物を自然の中で目にしたことのある児童はほとんどいないだろうが、水族
館や図鑑で見たことのある児童はいるであろう。そのことから、多くの児童が親しみを持てる教
材なので、『自分の思いや経験を自由に発表できる場（視点1・2）』を確保したい。また、『自
分で考えたことを伝え聞き合う場（視点1・2）』を意識して取り入れていきたい。

この説明文という文章の特徴をふまえ、問いの文と答えの文に着目して、説明している事柄をと
らえるという基礎的な読みの力をつけさせたい。そのために自分で見つけ出した本文中のことばや
文を視写したり、自分の考えをノートに書かせたりするなどして、伝え聞き合う場で活用させたい。
そして、読み取ったことを文字でまとめることを通して、問いと答えの関係をよりはっきりさせる
ような学習展開を試みていきたい。

4. 指導計画（全10時間）

過程	時	目 標	学 習 活 動	評価の観点					評価規準と 評価方法
				関	調	書	読	言	
一つかむ	1 2	「サンゴの海の生きものたち」を読み、自分の知らない世界に興味をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴの海や、そこにすむ生きものについて話し合う。 ・全文を読み、初めて知ったことや不思議だなと思ったことについて話し合う。 ・片仮名の生きものの名前を、読んだり書いたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな生きものが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか</p> </div>	○				○	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物について興味をもって読んでいる。(発言・観察) ・片仮名を読んだり書いたりしている。(発言・ノート)
二調べる 深める	1 2 3 4	それぞれの生き物たちのかかわり合いを読み取ることができる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・イソギンチャクとクマノミはどんなかかわり合いをしているのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・イソギンチャクがクマノミを食べないわけを読み取る。 ・クマノミがイソギンチャクのところにいるわけを読み取る。 ・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いをまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ホンソメワケベラと大きな魚はどんなかかわり合いをしているのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないわけを読み取る。 ・ホンソメワケベラが大きな魚近づいていくわけを読み取る。 ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめる。 				○ ○		<ul style="list-style-type: none"> ・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いについて、叙述に即して正確に読み取っている。(発言・観察・ワークシート) ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、叙述に即して正確に読み取っている。(発言・観察・ワークシート)
三広める	1 2 3 4	本を読んで「海の生きものずかん」をつくることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>海の生きものについての本を読もう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな海の生きものについて調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・生きもの図鑑(カード)を作ろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことをカードにまとめる。 ・クラスで「海のいきものずかん」をつくる。 	○				○	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生きものの本に興味を持ち、読もうとしている。(観察) ・本を読んで生き物の特徴をとらえ、伝えたい事柄を分かりやすくまとめている。(カード)

5. 本時の学習（第二次の3時）

（1）本時のねらい

ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取ることができる。

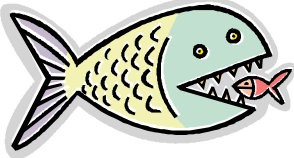
（2）評価規準

ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、叙述に即して読み取っている。

【読む】

（3）準備 教科書のホンソメワケベラの写真 ワークシート

（4）展開

過 程	学 習 活 動	予想される児童の意識の流れ	支援○と評価◎
つ か む ⑤ 考 え る 深 め る 33	1. 写真を見て本時に学習する生き物を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日はホンソメワケベラのお話だ。 ホンソメワケベラは誰とかかわっているのかな。 	○写真をみた感想や、初発の感想を振り返らせ、課題へとつなげる。
	2. 本時の課題をつかむ。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ホンソメワケベラと大きな魚はどんなかかわり合いをしているのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラが大きな魚に近づいていくわけを考えればいいんだよね。 	
	3. 学習場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ⑦⑧⑨段落を音読する。 	○学習の課題を意識しながら読むように言葉をかける。
考 え る 深 め る 33	4. 課題について話し合う。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> 大きな魚さん、そうじしにきたよ きみの体をそうじしたら、ぼくにも食べ物があたるから嬉しいよ。 体の虫をとってあげるよ。 </div>	○課題に対する自分の考えを持つ時間を確保し、ワークシートに書くようにする。（視点2）
	・ホンソメワケベラや大きな魚になって、相手にお話するようにワークシートを書く。		○課題に対する自分の考えを持つ時間を確保し、ワークシートに書くようにする。（視点2）
	・ワークシートの内容を、どの文からそう思ったかを交えて伝え合う。	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> いつも体の虫をとってくれてありがとう。 きみを食べないから安心してね。 今日も体をきれいにしとね。 </div>	○友だちの考えを聞き合い、想像を広げられるようにする。（視点1・2）
ふ り か え る ⑦		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大きな魚はホンソメワケベラに体や口の中をそうじしてもらう。ホンソメワケベラは大きな魚の体や口についた虫をたべものとしてもらう。</p> </div>	◎ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、叙述に即して読み取っていたか。【読む】（発言・ワークシート・態度）
	5. ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> 大きな魚がホンソメワケベラを食べないひみつがわかってきたよ。 ホンソメワケベラにとってもよいことがあるんだ。 次の時間ももっとくわしく読んでいこう。 	○本時の学習を、次時の学習につなげるように、自分の言葉で振り返らせる。

第4学年星組算数科学習指導案

1. 単元名 変わり方を見やすく表そう

2. 目標
- ・身の回りの事象の変化のようすを、折れ線グラフに表したり、折れ線グラフから変化の特徴や傾向を読み取ったりしようとする。
 - ・1つの量が増えたり減ったりする事象を考察するには、棒グラフよりも折れ線グラフで表したほうがよいことに気づき、折れ線グラフを適切に用いようとする。

【関心・意欲・態度】

- ・変化のようすが分かりやすい表し方を工夫する。 【数学的な考え方】

- ・折れ線グラフに表したり、それを読んだりすることができる。 【表現・処理】

- ・折れ線グラフの表し方、読み方を理解する。 【知識・理解】

3. 指導にあたって

《本単元における基礎・基本》

本単元においてはまず、第3学年での棒グラフが基礎・基本となると考えられる。3学年で、棒グラフの意味、読み方、書き方を学習している。また、他教科や日常生活において折れ線グラフを目にすることもあり、活動に意欲的に取り組むことができると考えられる。

折れ線グラフの指導にあたっては、「〇月」と「気温」、「時刻」と「気温」といった2量をそれぞれ相伴って変化していくデータを用いる。こうした変化を表現するには折れ線グラフが必要であることを理解させる。

折れ線グラフの読み方、かき方は関数の見方、考え方の基礎となるもので、本単元の学習によって、これらを意識づけることは、将来関数的なものの見方や考え方によって自然や社会現象を理解したり、それらのグラフを読み解いたり、かいたりするために極めて重要な意味をもっているからである。

本時においては、一日の気温を調べた表(10時が未測値)を、通常を目盛りをとったグラフと途中の目盛りを省略したグラフに表し、比較対照する活動を通して、波線を用いるよさと同時に、未測値である中間値を推定できるよさに気づかせる。まず、省略なしのグラフをかき、縦軸の目盛りの幅がせまく変わり方が分かりにくいことや、不必要な部分が多いことに気づかせるようにする。その上で、変わり方を分かりやすく表すための方法を考え、途中の目盛りを省略してもよいことを見つけられるようにする。

《児童観》

児童においては、前述のように折れ線グラフの学習以前に他教科との関わり、日常生活との関わりの中で折れ線グラフを目にすることがあり意欲的に学習活動に取り組むと考えられる。学期末ということもあり、日頃から続けてきた学習規律の確立が身に付き、学習態度にも落ち着きがみられる。折れ線グラフの特徴としては、棒グラフが、いくつかの並列された量の大小を比較する事が主目的であるのに対し、折れ線の部分と全体を分析的に調べたり、総合的に見たりして、連続的な変化の様子を知ることができるになっている。身の回りにある、伴って変わる二つの数量の変化の様子を調べ表現する活動を通して、児童の統計的な考え方を育てるのに格好の教材といえる。

研究テーマとの関わりについては、身近な題材である珠洲の平成17年6月21日の気温をもとに学習を進めていく。この日は、珠洲地方で今年初めて真夏日を観測した日であり、本時の題材として取り上げてみた。日常生活に関わりのある題材を用いることで、児童の意欲を引き出すことをねらいとしている。

振り返りについては、算数科では必ず授業の終わりに書き、また単元ごとの振り返りを行っている。授業の終わりの振り返りについては、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。しかし、まだ学習感想的なものが多く、友達の意見と聞き比べてどうだったかといった点や、次の課題が見つけられるような振り返りについてはまだ不十分である。2学期以降の課題である。

4. 指導計画（6時間）

	次	時	目 標	学 習 活 動	評価の観点				評価規準と評価方法
					関	数	知	表	
つかむ	1	1	○変化のようすを表すには折れ線グラフを使うとよいことを知る。 ○折れ線グラフの読み方を理解し、グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。	気温の変わり方を分かりやすく表すには、どんなグラフにしたらいいか考える 折れ線グラフと棒グラフの違いを見つけよう	○			○	身の回りの事象の変化のようすを表すのに適したグラフを考えようとしている。 (発言・ノート) 折れ線グラフを読むことができる。 (発言・ノート)
調べる	2		○折れ線の傾きと事象の変化の度合いとの関係を理解する。	気温の変わり方をくわしく調べる 折れ線グラフの読み方を考えよう	○				折れ線グラフは、変化のようすを見るのに便利であることに気づき、読み取ろうとしている。(発言・ノート)
								○	折れ線の傾き具合の違いを読み取ることができる。(発言・ノート)
							○		折れ線グラフの傾きと変化の度合いの関係を理解している。 (発言・ノート)
	3		○折れ線グラフのかき方を理解する。	折れ線グラフをかく 折れ線グラフをかこう				○	折れ線グラフをかくことができる。 (ノート)
	4 本時		○目盛りに波線を用いた折れ線グラフの表し方を理解する。	一日の気温を折れ線グラフに表す 見やすい折れ線グラフを考えよう			○		目盛りに波線を用いた折れ線グラフのかき方を理解している。 (ノート)
	5		○グラフから未測値を推測できることを理解する。	未測値を推測する 10時の気温は何度だろう				○	折れ線グラフから、未測値(中間値)を推測することができる。 (発言・ノート)
深める	2	1	○外的な活動を通して学習内容の理解を深め、折れ線グラフについての興味を広げる。	身の回りの具体的な事象の変化について調べた資料を折れ線グラフに表す活動に取り組む。 身の回りのことを折れ線グラフに表そう	○				学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。(ノート)
まとめる		2	○学習内容の理解を確認する。	「たしかめよう」に取り組む。			○		折れ線グラフの読み方やかき方を理解している。 (ノート・発言)

6. 本時の学習

(1) 本時のねらい (1 次の 4 時間)

目盛りに波線を用いた折れ線グラフの表し方を理解する。

(2) 評価規準

目盛りに波線を用いた折れ線グラフのかき方を理解している。【知識・理解】

(3) 準備

ワークシート、プロジェクタ、グラフと表、実物投影機、ワークシート

(4) 本時の展開

	学習活動	予想される児童の意識の流れ	支援(○)と評価(◎)
つかむ	1. いろいろなグラフ用紙を使って折れ線グラフをかく	<ul style="list-style-type: none"> ・けっこう暑そうだ ・天気がよさそう ・いろいろな形のグラフ用紙があるな ・どれがかきやすいだろう 	○早くかけた児童には複数のグラフ用紙に挑戦させる。
	2. 変わり方が分かりやすい折れ線グラフについて考える	<div>見やすい折れ線グラフを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小さいと書くのが大変だ ・たてに大きいと、下があいていて紙が無駄だ ・横に長いと変わり方が分かりにくい ・たてに大きいほうが変わり方が分かりやすい 	○実物投影機を用いて、児童のかいたグラフを発表させる(視点1)
	3. 波線で目盛りを省略した折れ線グラフに表す	<ul style="list-style-type: none"> ・さっきよりかきやすい ・変わり方が分かりやすい 	◎目盛りに波線を用いた折れ線グラフのかき方を理解している。 【表現・処理】(ノート)
	4. グラフを比べて、波線の効果やよさを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・波線があるほうがみやすい ・間隔があくので変わり方がわかりやすい <div>変わり方を分かりやすくするために波線を使う</div>	○波線のグラフをかくときには、データの入っているところを省略しないことをおさえる
	5. ふりかえりをする		
考える			
深める			
まとめる			